

教科用図書調査報告書

甲府市教科用図書採択審議委員会

1 種目 音楽（器楽合奏）

2 報告概要

教科書名 出版社名	特 徴
中学器楽 『音楽のお くりもの』 教育出版	<p>（1）表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成することができる内容であるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巻頭のカラーのページでは、さまざまな楽器を演奏する様子が写真入りで紹介されている。楽器ごとにページが記載され、教科書の本編の内容と関連し、確認できる配慮がされている。 ・「題材」と「題材のまとめの曲」が設定されており、音楽的な見方・考え方を育成できるようになっている。 ・同じ曲を他の楽器で演奏できるように考えられている。既習した楽曲を用いることで生徒が演奏しやすいという配慮がされている。 ・「発展」のコーナー（p31、56）があり、世界の民族楽器と管楽器や弦楽器の仲間を写真入りで確認できるようになっている。世界の音楽文化を意識しながら学習できるような工夫がされている。 ・「Let's Play」や「Let's Try」では、さまざまな楽器によるアンサンブルが扱われ、発展的な学習内容として活用でき、生徒の資質・能力を育成することができる。 ・「名曲旋律集」では、聴き慣れたメロディの一部が掲載され、日本の名曲から世界の名曲まで多様な音楽に触れることができる。 <p>（2）実践的・体験的な学習を行うことができるよう配慮されており、生徒の生活や体験及び興味や関心に応じた内容であるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽器の奏法が写真入りで順を追って掲載されており、すぐに実践的に活用できる。 ・リコーダーで初めて出てくる運指については、曲の横に図が掲載され、生徒がすぐ確認できる。 ・「Let's Play」では、ポップスの曲など、生徒が興味をもちそうな曲を掲載している。 ・楽器ごとに、実際の演奏者からのメッセージが掲載され、生徒の興味や関心に応じた内容になっている。 ・巻末にはギターのコード表、鍵盤図、リコーダーの運指表が資料として掲載され、生活の中で実際に演奏してみたいときに活用できる。 <p>（3）「A表現」と「B鑑賞」の構成・配列が適切であり、自主的な学習が進められるよう配慮されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管楽器（リコーダー・篠笛・尺八）、弦楽器（ギター・箏・三味線）、打楽器（太

	<p>鼓)の順に楽器が掲載され、楽器の仲間を認識しやすい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各楽器の最後に「深めてみよう」のコーナーがあり、自主的・発展的に学習を進めることができる。 ・二次元コードの「まなびリンク」が豊富にあり、曲の模範演奏や奏法を映像で確認することができる。 ・「名曲旋律集」として、p98～101では、有名な曲や鑑賞で扱う曲の一部が掲載され、鑑賞と器楽を関連づけた学習として有効である。 <p>(4) 音楽の記号及び用語、図や写真、挿絵等が適切であり、自己のイメージや感情、生活や社会、文化などに関連付けやすいよう配慮されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演奏者の写真が豊富に使用されており、演奏する姿勢や構え方などが理解しやすい。また、楽器の見やすい角度やアップの写真が多くわかりやすい。 ・楽器の説明や奏法が、写真入りでわかりやすく丁寧に解説されている。 ・諸外国の民族楽器や我が国の楽器などが写真入りで豊富に掲載されており、生活や社会、文化との関連を意識することができる。 ・巻末に「いろいろな用語、記号」(p107)が掲載されており、すぐに確認できる。
<p>『中学生の器楽』 教育芸術社</p>	<p>(1) 表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成することができる内容であるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巻頭のカラーのページに演奏家のコメントや音楽についての文章が掲載されており、音楽への興味・関心や国を超えた音楽文化を感じる工夫がされている。 ・目次の後のp8～9に「学習内容」や「音楽を形づくっている要素」が示されており、それぞれの教材で何を学習するのかが明確に表されている。音楽的な見方、考え方を働かせやすい。 ・箏の教材はどの曲にも必ず縦譜で示され、箏曲を学習するのに適している。将来的に楽器に関わるときに役に立ち、生活や社会と結びついていく配慮がされている。 ・「学びのコンパス」(p17、55、81、85)では、教材と関連付けて、音楽を形づくっている要素を学習することで、音楽の見方・考え方を育てる内容になっている。 ・打楽器について掲載されたページ(p63～67)では、多くの打楽器の奏法について写真入りでの説明があり、「知識・技能」として習得しやすい配慮がされている。 ・「アンサンブル」(p71～95)と「楽器でMelody」(p96～99)では、J-POPからクラシックの名曲、和楽器の曲まで幅広いジャンルの曲が掲載され、さまざまな楽器やハンドクラップなどで演奏ができる。音楽文化とさまざまな関わり方ができるきっかけになる工夫がされている。 ・楽器の図鑑(p104～105)では、楽器ごとに分類されて示され、どの楽器がどの仲間に関わるかすぐに確認できる。また、世界の民族楽器も含め、既習した内容が確認できる工夫がされている。 <p>(2) 実践的・体験的な学習を行うことができるよう配慮されており、生徒の生活や体験及び興味や関心に応じた内容であるか。</p>

- ・リコーダーで初めて出てくる運指については、曲の横に図が掲載され、生徒がすぐ確認できる。
- ・実際の演奏者からのメッセージが掲載されており、生徒の興味や関心に応じた内容になっている。
- ・一般の鑑賞曲で既習した歌舞伎の一部や箏曲の一部を、体験して演奏できる楽譜が掲載されている。
- ・アンサンブルの曲の難易度が適切で、多様な編成の教材が配列されている。
- ・「バンドの世界をのぞいてみよう」(p68)では、バンドの紹介と楽譜が掲載され、生徒の興味や関心に応じた内容になっている。
- ・巻末にはギターのコード表、鍵盤図、リコーダーの運指表が資料として付けられており、生活の中で実際に演奏してみたいときに活用できる。

(3)「A表現」と「B鑑賞」の構成・配列が適切であり、自主的な学習が進められるよう配慮されているか。

- ・リコーダーの曲が技術的に無理なく演奏できるように配列されていたり、美しい音の出し方が示されていたりすることから、自主的に技能が習得できるような工夫がされている。また、同じ曲をアルトリコーダーでもソプラノリコーダーでも演奏できる配慮がされている。
- ・箏の奏法が具体的に示され、鑑賞曲「六段の調」との関連を意識している。その曲の一部が楽譜として提示され、演奏できるように考えられている。
- ・和楽器のところでは、音楽（一般）の教科書との関連を考え、鑑賞で扱う教材との関連性をもたせた構成になっている。
- ・「My Melody」(p43)では、和楽器の創作を扱い、器楽と創作の関連を意識した構成になっている。
- ・二次元コードが豊富にあり、教材によって伴奏が演奏されるようになっていたり、奏法が映像で示されたりしている。また、創作のワークシートが示され、活用しやすいようにできている。

(4) 音楽の記号及び用語、図や写真、挿絵等が適切であり、自己のイメージや感情、生活や社会、文化などに関連付けやすいよう配慮されているか。

- ・巻頭のドラムソロの写真や、世界の民族楽器の写真により、生徒の器楽活動への興味、生活や社会、文化等との関連付けがしやすい配慮がされている。
- ・目次が楽器ごとの項目やアンサンブル、資料などに色分けがされ、見やすく配置されている。
- ・リコーダー (p25)、ギター (p27)、太鼓 (p51) などが、種類を比較しながら掲載されている写真があり、視覚で捉えて理解ができる工夫がされている。
- ・「音楽の約束」(p106)に、演奏に必要な音符・休符・記号・用語などがすぐに確認しやすいように掲載されている。